

職業能力開発総合大学校(旧東京校)における 就職支援授業の実践報告

職業能力開発総合大学校(旧東京校) 電子・情報系
元学務課
元電子・情報系

伊東久美子
鈴木 寧々
福良 博史

1. はじめに

職業能力開発総合大学校(旧東京校)では、就職支援の授業として、1年生前期(専門課程1年)に「キャリア形成論」、後期に「職業社会論」を実施していることは、既に報告済みである。¹⁾「キャリア形成論」は自己理解を中心とした授業であり、「職業社会論」は2年生(専門課程2年)で卒業して就職活動する学生のために、「ビジネスマナー」や「SPI対策」などの実践的な知識について授業を行う。

今回は、3年生(応用課程1年)に対して平成23年度に実施した「生涯職業能力開発体系論」の授業と、授業の前後に実施した学生アンケートの結果について報告する。

2. 生涯職業能力開発体系論の授業内容

「生涯職業能力開発体系論」は職業能力開発促進法の基本理念に基づいた科目で、平成21年度までは外部講師によって授業が行われていた。平成23年度は、自己啓発の必要性を知りキャリアプランについて考えると同時に、就職活動に必要な知識やスキルを習得する授業を行った。筆者らが担当した就職活動支援の部分を中心に報告する。

2.1 授業の流れ

東京校のキャリアミーティングで承認されたカリキュラムの流れは次のとおりである。

1. オリエンテーション
2. 自己理解(※)
3. 仕事理解(※)
4. エントリーシートと履歴書の書き方(※)
5. 面接対策
6. グループ面接(※)
7. グループディスカッション(※)
8. SPI模擬試験と解説
9. 職業講話
10. 学内会社説明会
11. 生涯職業能力開発体系
12. ジョブカード面談会

「1. オリエンテーション」は建築施工システム技術科、生産機械システム技術科、生産電子情報システム技術科の3科合同で実施し、企業で求められる能力や仕事に対する考え方、企業での能力開発の仕組みなどについて講義を行う。

次に、「2. 自己理解」、「3. 仕事理解」、「4. エントリーシートや履歴書の書き方」では、就職活動するうえでの基礎知識や手法について実践的に指導を行う。

「5. 面接対策」では企業の人事部長による講義と指導の後、「6. グループ面接」や「7. グルー

ブディスカッション」の演習を行う。学生に就職活動の実感もてるよう、カリキュラムの後半は外部講師を多く活用した。

「9. 職業講話」や「10. 学内会社説明会」では、人事担当者やOBから事業内容や採用職種について話を聴く機会をつくる。学生にとって、学んだ知識を生かし情報収集を行う良い機会になると思われる。

「11. 生涯職業能力開発体系」では、企業向けに能力開発担当者が能力開発プログラムの事例を紹介して、生涯職業能力開発体系図について説明する。

「12. ジョブカード面談会」では、ジョブカードに希望業界や職種、卒業までと入社後の能力開発目標、就職先で実現したい夢などを記入させ、登録キャリア・コンサルタントとの面談会を実施する。最後に個別相談の機会をもつことで、学生が身につけたこと、感じていることを確認できるようにした。

2.2 就職活動支援の授業内容

就職活動支援の項目（※印）について、授業内容の詳細を述べる。

2.2.1 自己理解

自己理解を深めることを目的として能力、興味、価値観などを調べた1年次の授業と異なり、仕事につながるコンピテンシーを意識しながら自己理解に取り組む授業を行った。

履歴書の「自己PR」や「学生時代に力を入れて取り組んだこと」といった項目に対応させ、これまでの成功体験のもとになった強みを探す演習を行う。具体的には、学生同士ペアになり1人が自分の経験を話し、もう1人がそのときに考えたことや実際に行動した内容についての質問を繰り返す。話し手の学生は、質問に答えるうちに気づいた自分の強みとなる資質やその拠り所を分析シート（表1）にまとめる。自分の強みに気づくことで就職活動に向けて自信をつけると同時に、1つの経験を掘り下げて質問するタイプの面接対策にもなると思う⁽¹⁾。

当たり前のことしかやっていないからと、自分の

強みをなかなか探せない学生もいる。当校の特徴である実習での経験を取り上げて、良い資質を探すようにアドバイスした。

表1 分析シート

状況から見た課題、その時の自分の課題

それに対して起こした行動

その結果（成功体験）

強みとなった資質やその拠り所

2.2.2 仕事理解

1年次の授業での仕事理解は、いろいろな職業があることを知り職業興味を探る内容だった。それに対し今回は、業界研究や企業研究を行ったうえで企業が求めるコンピテンシーを知って、就職活動に結び付ける授業を行った⁽²⁾。

学生を志望業界ごとのグループに分け、各自の志望企業について調べたことをグループごとにまとめて発表する演習を行う。グループ内の企業の共通点から気づいた業界の特徴や動向をまとめることによって、企業研究から業界研究に視点を広げるように指導した。業界内での企業の位置づけ等を知るとは、志望企業への理解を深めることにつながったと思う。

志望業界を決めるとその業界の情報しか収集しない傾向がある。業界同士が連鎖して1つの産業を形成していることを伝え、他の業界の出来事が志望業界に及ぼす影響等、世の中の動きに広く関心を持つように伝えた。

企業のホームページなどインターネットを主に活

用した演習になったが、今後、志望企業の情報収集を行ううえで良い経験になったと思う。

2.2.3 エントリーシートと履歴書の書き方

エントリーシートの設問は主に、自己PRや志望動機、キャリアデザインを問うものと、発想力や思考力に関する論文等に分けられる。

まず結論を始めに書き、次に理由を具体的に述べることや、調べたり準備した熱意が伝わるように書くことなど書き方について授業を行った^{(3), (4)}。その後、「自己PR」か「学生時代に最も辛かった経験とその際の対処方法」のどちらか1つを選んで400字にまとめる演習を行う。提出されたシートは、主張がわかりやすく熱意が伝わる場所は評価し、書き足りないところや誤字脱字は指摘して返却した。

当校の履歴書には、図1のように多くの記入欄がある。「自己PR」と「志望動機」をメインに志望企業が求めるコンピテンシーを意識しながら書くこと、志望企業での10年後、20年後の自分の姿も想定したうえで書くこと、各項目の内容がかぶらないよ

うに書くこと等を伝えた。

2.2.4 グループ面接

グループ面接のビデオを20分程度見た後、グループ面接の練習を行った。初めて会う人や他分野の人にも自分の勉強してきたことを説明できるようにするため、3科の学生を混ぜて8～9名のグループに分けた。グループごとに、面接官3名と応募者3名、観察者2～3名のように役割を振り分け、グループ面接の練習を行った。面接官役の学生は、応募者役の学生があらかじめ記入したジョブカード（長所や進路の希望）を見ながら質問する。1回10分程度の面接の後、観察者、面接官、応募者の順に振り返りを行い、改善点や感想を応募者役の学生にフィードバックする。授業担当者やアドバイザーがファシリテータとなり、タイムコントロールやフィードバックのまとめを行った。役割を変えてグループ面接を3回繰り返し、授業を終えた。

質問に対する答えの的確さから応募者の表情や気づかない癖まで、さまざまなフィードバックが観察

履歴書	自己紹介書
氏名	志望動機
現住所	自己PR
連絡先	得意科目・得意分野
学歴・職歴	課外活動・ボランティア・アルバイト
	特技・趣味
	資格・免許・賞
卒業制作・卒業研究について	学生生活を通じて得たこと

図1 履歴書

者や面接官から応募者役の学生に返された。応募者役はもちろん、ほかの役の学生も異なる角度から応募者役を観察できて勉強になったと思う。長く考え込んでしまう学生もいたが、質問がわからないときは聞き返したり、答えがまとまらないときは少し考える時間がほしいと伝えるなど、黙り込んでしまわないように指導した。

2.2.5 グループディスカッション

昨今の就職の選考では、初期段階でグループディスカッションを取り入れる企業が増えている。ディスカッションの形式は、その業界で起こる出来事について詳しく条件設定されたケーススタディや、自由討論、インバスケット、ディベートなどさまざまである。当校ではグループによる実習が多く取り入れられており、日頃の授業で比較的多くの話し合いの場が持たれている。そこで、授業では特に社会人としてのふるまいが求められることを伝え、異なる科の学生を1つのグループにして、初対面のメンバーとディスカッションするように設定した。

ディスカッションのテーマは、就職活動や今後の仕事に関係するものも多いが、今回は2回ともマーケティングに関するテーマを取り上げた。1回目は「東京都を訪れる外国人客を倍に増やす戦略を考えなさい」、2回目は「冬にアイスクリームを2倍売る戦略を考えなさい」というテーマである。同じようなテーマを繰り返したのは、ディスカッション練習の効果を学生に実感させたかったためである。

まずグループディスカッションについてのビデオを20分見せた後、5、6人のグループに分かれて1回目のディスカッションを30分行った。話し方の進め方については特に指導せず、リーダー、記録係、発表者などの役割決めも各グループの自主性に任せた。ディスカッション終了後に、グループごとにうまくいかなかった点を洗い出し、それを全体で共有して改善策をまとめるように指示した。時間配分や、話が分散してしまい深まらないなどの反省点があげられた。改善策として、総時間をもとに事前に時間配分を考えて話し合うことや焦点を絞って話を進めることなどが指摘された。

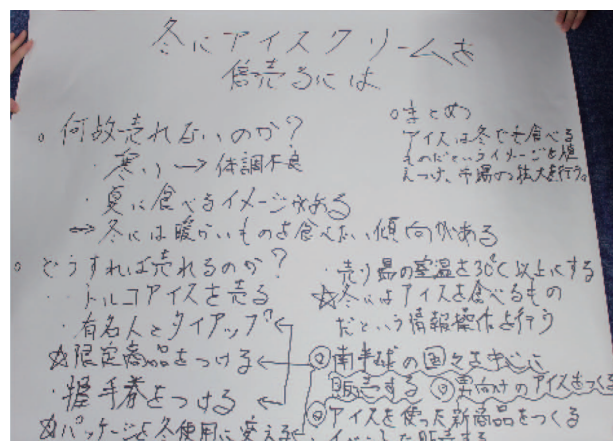


図2 グループディスカッションの一例

2回目は、事前に、論理的に話をすすめることや30分だと1人何分ぐらい話せるのかなど、ディスカッションの進め方について授業を行った⁵⁾。ディスカッション終了後、グループごとに配置した講師から積極性や協調性などの項目について個別にフィードバックを行った。話し合いを始める前に学生から、「売る地域を限定しなくてもよいか」とか、「利益は考えなくてもよいか」など、テーマをどう捕らえて話し合うかについての質問が出た。また、ディスカッション終了後の感想では、2回目のほうがリラックスしてできたという学生が多かった(図2)。

後日、何人かの学生からグループディスカッションの選考試験で力を発揮し、他大学の学生から感心されたという話を聞いた。模擬的に実施したディスカッションが、学生の就職活動に役だって良かったと思う。

3. 学生アンケートの結果

「生涯職業能力開発体系論」の授業の前後(2011年10月7日と2012年2月24日)で、就職活動に必要な知識やスキルについて、学生の感じ方の変化を調べるアンケートを実施した。表2に質問項目と授業前後での評定点の平均値および平均値の変化率(=(授業後の評定点-授業前の評定点)/授業前の評定点×100)を示す。10項目の質問項目のうち、問1～問3は就職活動に取り組む意欲を問う項目、問

表2 学生アンケート（(授業前) 2011年10月7日, (授業後) 2012年2月24日）

	質問項目	評定平均		変化率 (%)
		授業前	授業後	
問1	就職活動に向けて意欲的に取り組めそうである。	3.69	3.98	7.9
問2	興味のある企業を選んで、実際にエントリーしてみるつもりである。	3.98	4.29	7.8
問3	人気企業だけでなく、採用される可能性がありそうな企業も応募先の候補に入れるつもりだ。	4.01	4.18	4.2
問4	エントリーシートや履歴書の書き方のポイントが理解できている。	2.38	3.24	36.1
問5	エントリーシートや履歴書の定番的な項目について、自分がどのようなことを書くかだいたいイメージできている。	2.57	3.41	32.7
問6	エントリーシートや履歴書の定番的な項目について、実際に書くことができると思う。	2.57	3.29	28.0
問7	志望企業や業界についての調べ方を理解し、応募の際には、面接で聞かれても困らない程度の情報をもって臨むことができると思う。	2.89	3.35	15.9
問8	自分が企業を選ぶ際に重視していることを把握できている。	3.37	3.73	10.7
問9	自分のやりたいことや強みを理解し、それを具体的にアピールできる。	3.10	3.59	15.8
問10	応募企業ごとに企業が求めている人材と自分の強みとの一致点を検討し、それをアピールすることができるような気がする。	3.07	3.41	11.1

4～問6は応募書類の書き方の理解や習得を問う項目、問7～問10は企業理解、自己理解、自己アピールの理解や習得を問う項目で、応募書類を書いたり面接を受けるうえで基礎となる項目である。現在の自分の状態について、5（かなりあてはまる）～1（あてはまらない）の5段階で評定を求めた。対象者は、3年生（応用課程1年）の建築施工システム技術科24名、生産機械システム技術科28名、生産電子情報システム技術科21名である。

表から、すべての項目で授業後は授業前に比べて評定平均が大きいことがわかる。

問1～問3の意欲については変化率が小さいが、評定平均は授業前、授業後とも問4以降のどの質問項目よりも大きく、4点（あてはまる）前後である。このことから、授業の前後で変わらずに就職活動に取り組む意欲的があるものと推察される。

問4～問6の応募書類の書き方については、変化率が他の項目に比べて際立って大きい。履歴書やジョブカードの作成を繰り返し経験させたこと、授業後のアンケートが応募書類の作成に取り掛かる時期だったことなどが関係している可能性がある。ただし、評定平均は授業後でも3点台（どちらともいえない）である。今後も履歴書の添削など、個別指導を行う必要があると思う。

問7～問10の自己理解や仕事理解、自己アピールについては、変化率が一割以上大きくなっているものの、評定平均は授業の前後で3点台（どちらともいえない）である。自己理解を深めるには、じっくりと1人ひとりの話を聴き、強みを引き出す丁寧な個別支援が必要だと思う。また企業研究では、日頃から新聞を読むなど社会の動向に目を向けたり、インターンシップやOB訪問など生の情報に触れる機会を多く持てるよう指導する必要があると思う。

4. おわりに

3年生を対象とした「生涯職業能力開発体系論」の授業について、筆者らが実施した就職活動支援の部分の内容を報告した。

授業の前後で就職意欲があるか、応募書類の作成、や自己理解、企業理解、自己アピールを理解、習得できたと感じているかについて、アンケート調査を実施した。その結果、授業後に行った学生アンケートの評定平均は、すべての質問項目で授業前よりも大きかった。しかし、就職意欲以外の知識の理解やスキルの習得については、授業後も「どちらともいえない」と評定された（平均値）。

書類作成や面接に自信をもって臨めるように、今

後個別指導を実施したい。また、放課後に最近のニュースをテーマにグループディスカッションを行ったり、企業説明会やOB訪問に積極的に参加して情報収集するように促したい。

集団説明会の参加に尻込みして活動時期が遅れる学生がいる一方で、空き時間をみつけて住宅展示場を回って歩くなど、自分の足で希望するハウスメーカーを徹底調査する学生もいる。行動力や積極性は小さな成功体験の積み重ねと考えられる。教室での授業のほかに入学当初から啓発的経験を促すことが、学生が能動的に就職活動を行ううえで必要であると思われる。

[謝辞]

有益な助言を頂いた学務課の大天係長、元東京校環境化学科の松井菊子先生に感謝いたします。

<参考文献>

- (1) 森 俊夫：「先生のためのやさしいブリーフセラピー」, ほんの森出版, 2008年, pp10-102
- (2) 郡司昌恭：「就活生はユーホーを探せ」, 青月社, 2011年
- (3) 池上 彰：「伝える力」, PHP, 2007年, pp122-138
- (4) キャリアデザインプロジェクト：「合格実例集&セオリー（エントリーシート編）」, PHP, 2011年, pp16-89
- (5) キャリアデザインプロジェクト：「合格実例集&セオリー（面接編）」, PHP, 2011年, pp143-155

*編集部注：校名については筆者の希望により執筆時点の校名を併記しています。